

☆鳥羽市立鳥羽東中学校区の取組

◆事業概要



1 中学校区の現状と課題

鳥羽東中学校区では、経済的な厳しさや家庭環境などの生活背景をとらえながら、子どもたちの自尊感情や学習意欲を高めていくことが課題となっています。さらに、離島校においては、少人数の中で育つことにより、人間関係が固定化されやすい実態があります。また、表現することが苦手な子どもも少なくありません。

こうした子どもたちの実態から、学校・家庭・地域が連携を深め、「子どもたちに励ましの声をかけたり褒めたりすることによって自尊感情や学習意欲を高めること」や、「多くの人との関わりの中で多様性を感じ、表現力を高めること」などをめざして、活動を進めました。

2 課題解決のための主な取組

(1) 島っ子ガイド

コミュニケーション能力を養い、地域への関心を深めるために、菅島小学校の子どもたちが、自分たちの住む島を観光客に案内する「島っ子ガイド」の取組を進めました。家族や地域住民が、子どもたちの「調べたいこと」や「ガイドしたいこと」などのニーズに応えながら活動を支援しました。子どもたちは、国登録有形文化財の菅島灯台や地域の漁業等について、クイズや説明を交えながら、島内案内に取り組みました。島っ子ガイドフェスティバルでは、旅館組合や漁協の方々も子どもたちの活動を支援してくれました。菅島のことを大きな声で説明している子どもの姿を見た地域住民や観光客から、「がんばれよ」「元気な声や」「説明がよく分かったよ」などの声かけがあり、活動への意欲がさらに高まりました。



島っ子ガイドの様子

(2) あさりの養殖体験学習

この学習では、新しい事業にチャレンジしている人たちの思いにふれることで、自分の将来像について考えたり、地場産業に興味・関心をもったり、海の環境について学んだりすることを目的として取り組みました。子どもたちは、浦村アサリ研究会の方から指導を受け、カキ殻加工固形物の「ケアシェル」と砂利を混ぜて網袋に入れ、海岸に敷設する作業を体験しました。「海を大事にしたい。自分の故郷を大事にしたい。みんなもそうやってほしい」という研究会の方の思いにふれ、子どもたちは、「普段なまけたり、さぼったりしてしまうこともあるけど、これからは勉強をがんばりたい」と感想を伝えていました。さらに、数名の子どもが、今の自分やこれからの生き方について発表する姿がありました。



あさりの養殖体験の様子

(3) 鳥羽物語（踊り）の取組

中学校では、以前に比べ、地域住民との関わりが希薄になっており、子どもたちが認められたり、褒められたりする場面が少なくなっていました。地域の方が講師として、「鳥羽物語」を指導し、市民運動会で中学生が踊りを披露しました。後日、地域住民から「今年の鳥羽東中の『鳥羽物語』は、生き生きしていて非常によかった」という声が届けられました。子どもたちは、自分たちの活動が地域の方に認められたという実感をもちました。



鳥羽物語の様子

◆実践を振り返って

3つの離島があるなど、広い地域をもつ鳥羽東中学校区ですが、日常的な係わりと行事等での係わりを通して、学校・家庭・地域がつながりを深め、子どもたちの自尊感情や学習意欲の向上を図ることができました。地域住民と協力して取り組んだり、学んだことを発信したりすることで、子どもたちはたくさんの人に認められる体験をしました。そのことが、自信や積極性の向上につながりました。今後も子どもの課題をしっかりと共有して、学校・家庭・地域が一体となった課題解決のための取組を継続的に進めていきたいと考えています。